

事業所名

多機能型（児発・放デイ） あうる

支援プログラム

作成日

7年

3月

10日

法人（事業所）理念	法人理念；地域に根付いた福祉を目指し、障がい者・児への理解及び繋がるひとつのきっかけ作りと、共に集える居場所的な場の提供を目的として、社会や地域との橋渡しを目指します。						
支援方針	本人の気持ちを温かく受け止め、支援を行っていく中で成長・発達を見守って行きます。						
営業時間	9時	30分から	16時	30分まで	送迎実施の有無	(あり) なし	
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	ご家族からのアセスメント及び本人の特性などを配慮した上で、身辺自立（食事・排泄・着脱・睡眠・清潔・安全など）を促し、支援・サポートして行きます。					
	運動・感覚	本人の運動能力を引き出せるように、今の状態を把握した上で、自分で出来る事を増やして行ける支援・サポートをして行きます。下記の3つの運動を合わせて活動します。 ※1粗大運動；立つ・座る・歩く・かがむ・支える・姿勢を保つ・ジャンプをする（トランポリンなど）・バランスをとる（一本橋など）・柔軟な身体づくり（マットなど） ※2微細運動；道具を使って食べる・パンツやズボンを脱ぎ穿きする・ボタンはめるはずす・積み木を重ねる・粘土あそび（捏ねる・ちぎる・丸めるなど）・鉛筆やペン、筆を使うなど ※3協調運動；縄跳び・鉄棒・スキップ・風船やボール遊び・音楽に合わせて身体を動かすなど					
	認知・行動	本人の特性を理解し、色・形・数・時間の概念・物の名称・位置・分類・感情表現・目のトレーニングなどを活用し、認知・行動出来るように支援・サポートして行きます。					
	言語 コミュニケーション	本人の伝える意思を確認しながら簡単な言語・発語を大切に支援・サポートして行きます。（非言語；身振り・手振り・指差し・サイン・ジェスチャーなど。言語；2語文・3語文・名詞・動詞・形容詞など）					
	人間関係 社会性	本人の関わりたい気持ちが伝えやすいような場面づくりをし、本人自ら参加出来る場面を提供し支援・サポートして行きます。（ごっこ遊び※4；ままごと・お店屋さんごっこ・電車ごっこなど、集団遊び※5；しつぽとり・かくれんぼ・たるまさんがころんだなど）上記の活動をしていく中でルールを守る力を養って行きます。					
家族支援		支援の方向性を保護者と共有しながら、本人の成長を見守って行きます。また保護者の思いを尊重し、寄り添いながら本人の成長に沿った関わりを共有して行きます。日常の不安・困り感について傾聴する機会を設けていきます。	移行支援	事業所で身に付いた事が、大きい集団生活の中で、同じように行動できるように支援・サポートして行きます。こども園や小学校との情報交換を密に行い本人の姿を伝え地域の中で過ごして行けるように支援して行きます。			
地域支援・地域連携		本人に必要な地域の情報を共有していきます。また必要に応じて関係機関との連携を図りながら情報共有を行い、具体的な支援に繋げて行きます。	職員の質の向上	事業所内で行う研修を、正規職員、非正規職員に入社後に受講してもらいます。また外部の研修にも積極的に参加しています。資格取得も適宜促していきます。			
主な行事等		毎月マインドエアロビクス、公園への外出、プール遊び、季節ごとの工作、お誕生日会など。					

※1「粗大運動」とは、大きな動きを伴う運動で、日常生活の土台となる体の動きのことです。

※2「微細運動」とは、手や指を使った細かく精密で細かい動作のことを指します。

※3「協調運動」とは、手と足、目と手など別々に動く機能をまとめてひとつにして動かす運動のことです。

※4「ごっこ遊び」とは、自分や他者が別の誰かや、何かになりきったり真似をしたり、何かを別のものに見立てたりしながらストーリーを開拓していく遊びのことをいいます。

※5「集団遊び」とは複数の子ども同士で遊ぶことです。子どもたちが1つの目的をもって集団で遊ぶことで達成感を分かち合い、協力し合うよろこびや楽しさを感じたり、子ども同士のふれ合いを通して、他者への興味・関心・思いやりの心を育む機会にもなります。